

【戸羽 陸前高田市長等からの要請】

- ・一関を5時半頃通過したが、早朝にも関わらず果てしなく長い車の列があり、ガソリンスタンドのオープンを待っていた。
- ・陸前高田市は、壊滅的な被害を受け、給食センターを対策本部とし、その近くに仮設市役所を設置。
- ・240人いる市職員のうち、80人がまだ行方不明。
- ・市役所は流されてしまったが、バックアップが残っていた為、住民基本台帳はわかるので住民票と死亡届は出せる状態。
- ・避難所に寝泊まりしている人以外も、スーパーも無くガソリンも無く物資に困っているので、自宅にいる方も避難所登録をしてもらい物資を配っている。
- ・長部地区では、3月24日より自衛隊のお風呂に10日に一回のペースで入ることが出来るようになった。
- ・電気、水、ガス、テレビ、ラジオもなく、22日ごろからようやく新聞が届くようになる。

＜要望＞

- ・早く仮設住宅を建てて欲しい。
- ・被災地以外の場所への避難については、生まれ育った場所を離れることも、子どもの事、仕事の事、まだ、行方不明の家族がいる中、離れるることは考えにくい。ここで頑張りたいと言う声。
- ・しかし、仮設住宅に関しては、行政は、校庭を作りたい。住民は学校機能が果たせなくなるので、別の場所にとの思い。私有地を国が買い取るなどして、そこに建てて欲しいという声も。
- ・ガソリンスタンドが、壊滅し一つも無い状態。タンクローリーが欲しい。
- ・各種手続きを年単位で猶予して欲しい。
- ・漁業、農業の復興までの生活支援。
- ・被災者全員に平等に物資を配りたいので、その配慮を。
- ・いつまでも食糧をもらって生活するのではなく、一日も早く、地域で自立したい。そのための復興支援措置を。

＜物資＞

- ・下着
 - ・靴
 - ・靴下
 - ・文房具（鉛筆からランドセル、教科書全て流された。なんとか子どもたちに支援を出来ないか）
 - ・湿布
 - ・発電機
 - ・石鹼
 - ・歯磨き粉
- * 食糧よりも日用品が欲しい。

もうすぐ新学期ですが、鉛筆も、ランドセルも何もかも流されてしまった。これからどうやって新学期を迎えるかが大きな課題だし、体育館は避難所、校庭に仮設住宅が出来るという中で、どうやって教育機能をはたしていくか悩まれていました。

【戸田 大船渡市長等からの要請】

- ・役所機能が生きていることもあり、復旧が進んでいることを感じた。
- ・最初は、何もかもが足りなかつたけれど、先週から物資が届くようになり、ガソリン等への不満の声も徐々に減ってきている。
- ・避難所を53カ所設置し、避難者数は5169人。その他、自宅で寝泊まりしているけれども、生活、食糧物資の支援を行っている市民は2600人強いる。
- ・地域の一体感があるので、自宅に住んでいる人に対しても物資を提供している。
- ・津波を受けた被災者は、同じ場所にまた家を建てようという人は、自分たちが聞いた中では一人もいない。津波を受けた地域は、都市計画の見直しを行い、人を住まいようにするか、木造はやめて、鉄筋コンクリートのみにするなどしてはどうか。(市長及び市職員)
- ・地元の温泉施設を利用して、毎日1000人、お風呂を提供。
- ・今後は、復旧に向けた作業を本格的に行っていきたい。

＜要望＞

- ・NTT→固定電話を早くつながるように。
- ・損保→津波も水害にあたるという運用をして欲しい。
- ・太平洋セメントが電気が通らず、工場が動かせない状態。復旧に向けての作業の為にも、何とか電気を通して欲しい。
- ・北里大学、4年間相模原校舎に移すこと。安全性に問題はないので、是非移さないで欲しい。
- ・雇用促進住宅の被災者向け住宅の利用期間が、6ヶ月。2年間くらい利用可能に出来ないか。
- ・漁業者、養殖施設等の復興までの間の生活支援。
- ・仮設住宅の早期設置。

＜物資＞

- ・下着
- ・充電できる機能
- ・靴
- ・簡易トイレ
- ・棺桶